あたたかいご支援をありがとうございました。

～SVAの新潟県中越沖地震救援活動報告（3）～

2007年11月1日

被災地の状況と課題

7月16日の地震発生から3ヶ月が過ぎました。14人の方が亡くなり、3万棟以上の家屋が被害を受けた被災地では、冬に備えながらの生活再建が進められています。壊れた自宅を建て直す間に、一時的な仮住まいで暮らす方や、土地の地盤が不安定なために自宅再建の目処が立てられない方もいます。全部で1,222戸建設された応急仮設住宅では、様々な事情を抱えた方たちが今も生活再建を目指しています。

仮設住宅でも復興へ向けた生活がようやく始まった。

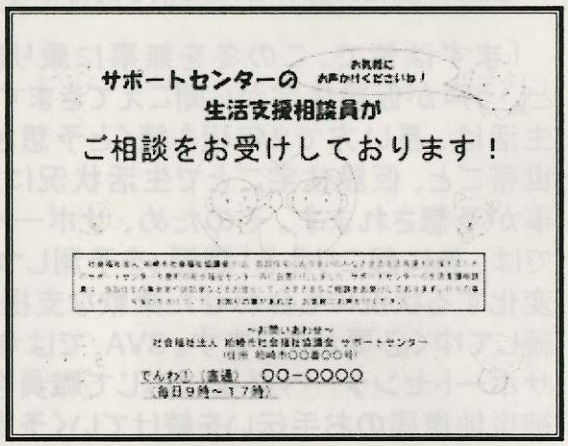
被災直後から約1ヶ月半続いた避難所での生活は、小中学校の体育館やコミュニティーセンターなど酷暑の中での集団生活でした。現在仮設住宅では各世帯が独立し、プライバシー等の問題は解消したものの避難所にはあった「そこで知り合った人同士がお互いに支え合う」という場面は少なくなりました。修繕された「我が家」や仮設住宅内の整理を一段落させ、ようやく今後の課題に取り組める心持ちになった方もいるようです。しかし、未だに多くの方が、生活再建のための経済的問題や、健康面での不安、精神的負担、仮設住宅で冬を迎える事の心配など、不安を抱えながら日々の生活をおくっています。

SVAの取り組み

1. 応急仮設住宅「サポートセンター」を立ち上げる

SVAでは10月9日まで職員を柏崎市に派遣し仮設住宅のサポートなどの活動を行いました。

同市には39ヶ所1,007戸の仮設住宅が建設されましたが、場所により入居者の年齢構成、生活上での不便さ、住民同士のつながりなどに格差があるため、きめ細やかな対応が必要です。そのため9月中旬、柏崎市社会福祉協議会内に仮設住宅住民を支援するための「サポートセンター」が設置されました。



「生活支援相談員」の活動を知らせるポスター。

同センターには17人の「生活支援相談員」が配属されて、柏崎市内の各仮設住宅を訪れて、個々の生活（よろず）相談や住民同士の関係（コミュニティー）づくりを担っています。SVAでは、同市社会福祉協議会の要請のもと、このサポートセンターの立ち上げを支援し、生活支援相談員とともに仮設住宅内でのコミュニティー作りの活動などに参加しました。

（左）「お茶会」をきっかけに住民同士がお付き合いを始める。

2. 仮設住宅で「顔の見える関係」の輪を広げる

「よくお会いするけど、お名前何とおっしゃるの？」「私は○○というんですよ、これからよろしくね！」。ある仮設住宅で初めて「お茶会」を開いた時の会話です。20 世帯以上が集まる仮設住宅には「集会室」があり、生活支援相談員は住民同士が交流できる機会を増やすために工夫しながらこのようなスペースを活用しています。一緒にお茶を飲むことなどから始めて「顔の見える関係」が広がるように活動しています。「ご近所同士で助け合っていこう」という雰囲気が、仮設住宅に生まれていく事を目標にしています。

備品が少なく、「がらん」とした集会室（上）を工夫して、お茶会など「交流の場」を創る。

「笑い」も大切、みんなで「江戸の長屋」の世界を楽しむ。

折を見て「にぎやかな」雰囲気をつくることも「元気づけ」になります。集会室で落語会を開く、健康体操の時間を設けるなど、住民同士が楽しく集える機会も必要とされています。特に、高齢者は狭い部屋に閉じこもったままにならないような配慮が必要です。これからは寒さが一段と厳しくなる被災地において、体も心もお互いに「温め合える」ような、コミュニティーづくりを模索中です。

3. 状況の変化にあわせた柔軟な対応が求められる

「まずは皆で、この冬を無事に乗りきろう！」という声が仮設住宅から聞こえてきます。仮設の生活は、長い方で2年程も続くと予想されます。世帯ごと、仮設住宅ごとで生活状況に差が出る事が予想されます。そのため、サポートセンターでは、先に起こりえる「課題」を予測しつつ、日々変化する状況にも合わせた柔軟な支援活動を継続してゆく必要があります。SVA では今後もこのサポートセンターへ必要に応じて職員を派遣し、被災地復興のお手伝いを続けていく予定です。

「お祭り」も仮設住宅で開催、天気も良く盛り上がった。

◆ 被災地におけるボランティア活動を希望される方は、必ず事前に各市町村ボランティアセンターへお問い合わせの上、活動の必要性があるかどうかをご確認ください。

■新潟県中越沖地震救援活動に関するお問い合わせは、下記まで
(社)シャンティ国際ボランティア会(SVA)東京事務所　緊急救援担当
〒160-0015　東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2・3F
TEL:03-5360-1233　FAX:03-5360-1220　URL:http://www.sva.or.jp/
E-mail : eru@sva.or.jp